

# 平成28年度東京都高等学校新人陸上競技選手権大会のみどころ

今年のリオデジャネイロ五輪では、東京都出身のケンブリッジ 飛鳥選手が4×100mリレーにおいて銀メダルを獲得する大活躍をしました。そのケンブリッジ選手も2010年の東京都新人大会において100m・200mで優勝し、東京都を代表するレベルに成長しました。今年出場する皆さんも、世界へのステップとして今年大会でその競技力を更に高め、来年度の山形インターハイへ向けて躍進されることを期待します。

10月22・23日に埼玉県で行われる関東新人大会出場を目指す本大会の展望をお楽しみください。

## 男子

### ・短距離

100mでは、今夏の岡山インターハイで一躍6位に入賞し10秒49にまで記録を伸ばした黒木 心貴（東京2）が優勝候補だろう。黒木は10秒65で迎えたインターハイで予選・準決勝と自己記録を更新し一気に成長した。秋の岩手国体にも出場することから調整も順調であると考えれば他を引き離す走りを期待したい。黒木を脅かす存在としては、池松 蒼太（岩倉2）、根本 寛大（城西2）、齊藤 陸人（八王子1）、村上 玲央（久我山2）らが虎視眈々と優勝を狙っている。

200mでは、支部予選でトップタイムを出している吉田 有伯（城西2）が21秒63にまで記録を伸ばして元気なところを見せている。新人大会とはいえレベルアップしている東京都のスプリントなので、有力選手が欠場しているとはいえ21秒台でなければ決勝進出は難しいかもしれない。

400mでは、インターハイ2位の井上 大地（東京2）とインターハイ出場の倉田 信太朗（城西2）が欠場しておりやや寂しい状況だ。中心となるのは海老原 拓哉（城西2）、遠藤 洸季（都板橋2）あたりだろうが48秒台での競り合いを期待したい。

### ・中長距離

ここ数年レベルが上がってきた800mだが、今年は中心となり得る選手がいないことからややレベルが下がった状況の混戦が予想される。その中で、支部予選トップタイムの吉田 雅隆（日大桜丘2）と尾関 理應（日大豊山2）そして福元 陸王（都成瀬2）が中心となると思われる。予選のタイムレースがカギとなりそう。

1500mと5000mでは、有力選手が多かった3年生が抜けたことと、駅伝大会に出場し今大会に出場しない選手も多いことから「混戦必至」な2種目となろう。

このような状況で、優勝を狙えそうなのは、1500mでは吉永 澤希（駒大高1）、中野 翔太（東京1）の1年生と奈須 海・長谷川 拓哉の大東一の2年生コンビに力がありレースを牽引するだろう。

5000mでは支部予選で唯一の14分台をマークしている嶋津 雄大（都若葉総合2）がランキングトップで他を大きく引き離している状況だ。嶋津と競り合う力があるのは岡田 享也（拓大一2）であり優勝候補といえよう。特出した力を持った選手が少ないことから混戦が予想されラストでのスピード争いとなりそう。

3000mSCには50名を超える出場者が優勝を争う事となり予選は3組となった。9分40秒台の自己記録を持つ選手が宮崎 尚樹（穎明館2）、奥 恭典・高橋 永遠（久我山2）、大熊 開（城西2）と4名おりレースを引っ張ることだろう。9分20秒台での優勝を期待したいが、この種目の経験が浅い選手が多いことから最後まで粘り強く走れば入賞のチャンスはあるだろう。

### ・ハードル・競歩

110mHは、岡山インターハイに出場し14秒台の記録を持つ井上 大海（東京2）の優勝は間違いないだろう。戦う相手は自分だけであるがリズムが合わないと思ってしまう事もあるので気を付けたいところだろう。高橋 郁斗（都南多摩中等2）も14秒台の力があるだけに期待したい。

400mHは、51秒59のベストを持ち南関東大会優勝の井上 大地（東京2）が優勝候補NO1であるが関東以後、歩数が合わずタイムは停滞している。しかし、国体に向け調整してくるだろう。井戸 貴裕（城西2）、

佐藤 将騎（日工大駒場2）にも5.2秒台を期待できるだけに複数での大会新記録を期待したいところだ。

5000m競歩では、岡山インターハイで8位に入賞し2.0分台の記録を持つ竹内 悠（堀越2）が大会記録を目指す。暑い中でも粘り強いレースを経験してただけにその力は確かである。

#### ・跳躍

走高跳では、支部予選で2mを超えたものはいないが、昨年の中学チャンピオンで自己記録2m04を持ち今季2m00を2回クリアしている佐藤 駿平（東京1）が実力的には一歩リードしている。しかし、まだ1年生であり安定感に欠けているので「優勝は確実」とは言えない。1m96以上を跳んでいる松本 茜（日工大駒場2）、石川 玲（八王子1）、混成競技が専門の加藤 舜涼（都城東2）らにも優勝のチャンスがあるだろう。

棒高跳は、4m80を跳びインターハイに出場した3年生の熊坂 優（東京）が抜けたが、4m50以上の記録を持つ2年生が4名いて面白い戦いが見られそう。その中でも、4m60の自己記録を持っている狐島 彰太（都富士2）が有力であろう。4m50では田代 海人（都雪谷2）、南雲 海哉・生島 昇（ともに明星学園2）という関東新人出場争いも熾烈になりそう。入賞ラインも例年の4m00から上がることは必至だろう。

走幅跳は、岡山インターハイ優勝の橋岡 優輝（八王子3）がぬけ、昨年の国体少年B優勝の酒井 由吾（都南多摩中等2）が欠場していることからやや寂しくなった。その中で、今年の岩手国体少年Bに出場する加藤 楓（東京1）が国体予選で7mを跳んでいることから優勝候補といえるだろう。しかし、坂井 公亮（八王子2）や松岡 晃輝（日工大駒場1）にも7mを跳ぶ力があるので混戦となるのは明らかだ。最後の6回目での逆転劇も十分あり得るので最後まで目が離せないだろう。

三段跳びでは、まだ1.4mを超えている選手がおらず、更に1.4mに迫る選手が見当たらないことからやや低いレベルの優勝争いになりそう。その中で、峰崎 健（立教池袋2）、坂井 公亮（八王子2）、松井 陸（都田無2）、小島 祐樹（都城東2）が1.4mを超える可能性を持っているので期待したい。

#### ・投擲

砲丸投では1.4mを超える自己記録を持っている國司 裕通（都田無2）、木村 知紀・岩本 高希・蒲谷 淳志の東京高校2年生トリオと岩手国体少年Bに出場する石坂 奨真（保善2）の優勝争いとなりそう。関東新人争いも熾烈になりそう。最後の投擲まで目が離せないだろう。1.5mに迫るビッグ・ショットを期待したい。

円盤投では今年のインターハイに出場できていない種目の一つであり、来年に向けて強化したい。その中で、支部予選で4.2mを超えた蒲谷 淳志（東京2）と4.1m台の自己記録を持つ國司 裕通（都田無2）との投げ合いが予想される。是非とも全国クラスの4.5mは超えて来年につなげてもらいたい。

ハンマー投では、今年のインターハイで石井 大稀（都府中工業3）が6.0mに迫る記録で入賞したほか、5.5mを超える選手が4名もでた。これも強化競技会等での成果だと確信する。今大会の出場者でも5.0mを超える自己記録を持っている武田 瑛大（保善2）・西多 徳義（東京2）の2名が優勝を争うだろう。

やり投げは、今年関東大会まで出場している加藤 舜涼（都城東2）と1年生ながら急成長の山岸 武・幹（ともに東京1）の優勝争いとなりそう。今大会は競技日程の関係から大会初日に予選無しの一発決勝となる。序盤に勝負が決まる可能性が高いだけに、一投目に注目したい。

#### ・リレー

4×100mリレーでは、支部予選の記録を見ると東京・八王子・國學院久我山の3校が競り合うことが予想できるが、ベストメンバーで組めば城西が優勝候補筆頭だろう。新チームながら4.0秒台を出す可能性も高く最も有力であると言える。4.1秒台が入賞ラインになるかもしれない。

また、4×400mリレーでは東京・城西・八王子・明星学園が優勝を争う激戦が予想される。アンカーに井上 大地を置けば東京の優勝が固いだろう。3分2.3秒台くらいが決勝進出か？

#### ・総合

トラック・フィールドともにバランスの取れている東京高校が連覇を伸ばしそう。これに、短距離で大量得点できる城西が上位を争いそう。また、都立高校では松が谷・田無・城東などからも多くの入賞者が出そう。

# 平成28年度東京都高等学校新人陸上競技選手権大会のみどころ

今年のインターハイで、東京都の女子は7種目に入賞した。男子同様現在の東京都の競技力は全国屈指である。今大会での結果を踏まえ、来年は更に上を目指すためにも今大会に期待したい。

10月22・23日に埼玉県で行われる関東新人大会出場を目指す本大会の展望をお楽しみください。

## 女子

### ・短距離

100m・200mでは、東京高校の選手（守田 紗矢香2年・中島 彩弥香2年・山内 さくら1年・高橋 真由1年）が両種目とも軸となり、川鍋 ゆりか（白梅学園2年）、広沢 優美（八王子1）、西村 琴葉（早稲田実2）が東京高校の3人に割って入りそうだ。100mでは岩手国体少年Bに出場する山内が、200mでは守田が中心となり川鍋らがそれを阻む展開となるだろう。100mでは11秒台を、200mでは24秒台前半を複数の選手がマークすることを期待したい。

400mは、南関東大会で55秒台をマークしながらも7・8位として悔しい思いをした中島 彩弥香（東京2）と高田 真菜（早稲田実業1）の一騎打ちとなりそうだ。両名が競り合い共に大会記録を更新してもらいたい。また、井上 彩加・佐井 杏子（ともに東京2）が55秒台に入りレベルを上げてもらいたい。

### ・中長距離

800mでは、400mでも優勝候補で岩手国体少年B800mに出場する高田 真菜に2分10秒を切つての優勝を期待したい。今季すでに2分8秒台で走っておりインターハイでも準決勝に進出していることから今大会のみならず国体でもその存在感を大いに発揮してもらいたい。

長距離は男子同様、白河駅伝に出場する選手も多いため主力選手の名前が見当たらない学校もある。その中で、大会初日の1500mで優勝を争うのは、伊藤 明日香（順天2）を中心に田中 真子（1）・御廐 敷 莉乃・志乃（2）の日体大荏原の3名と金杉 有紗（城西2）らのデットヒートとなるだろう。

3000mでは、支部予選で9分台の選手はいないが全国駅伝を目指す八王子高校の前田 桃花・山名 愛美（ともに2年）と日体大荏原の3名が先頭集団を形成しレースを展開しそうだ。積極的なレースを期待したい。

### ・ハードル・競歩

100mHでは、七種競技が専門の大野 優衣（白梅学園2）が13秒8台にまで記録を高めて出場する。インターハイではやや精彩を欠いていたがここにきて復調の兆しだ。大会新記録はもとより東京都高校新記録の期待さえありうるだろう。予選からその走りに注目したい。

400mHでは、南関東大会で7位とした篠原 瑞希（東京2）が1分02秒20の記録を持ちランキングトップである。長身を生かしたストライドで安定したインターバルを保てることから優勝は間違いないだろう。幸村 穂野香（駒大高2）も経験を積み成長してきたことから優勝を争う存在となるだろう。

今大会16名の出場となったこの5000m競歩であるが、まだまだ普及が必要かと痛感する次第である。その中で、武川 里香子（東京成徳2）、廣田 裕美（筑波大附2）の両名が26分台の記録を持ち優勝を争う事だろう。是非とも25分台を目指した歩きをしてもらいたい。

### ・跳躍

走高跳では、ハードルの優勝候補である大野 優衣が支部予選で1m72の自己ベストを跳び一躍ランキングトップで優勝候補となった。高橋 渚（東京2）もインターハイで1m66を跳び、支部予選では1m68にまで自己記録を伸ばし大野に対抗しそうだ。関東新人出場には1m60以上が必要となるだろう。

走幅跳では、岩手国体にこの種目出場する大野 優衣がこの種目でも優勝確実であろう。今季すでに6m04を跳び大会記録更新を目指している。インターハイ出場を逃した東 祐希（八王子2）も復調の兆しと見える。大野との「一騎打ち」となることを期待したい。

三段跳は今年30名のエントリーと年々競技人口も増加傾向であり、競技レベルも向上中だ。今大会の出場者で既に11mを越えている選手も3名おり活況といえる。その中で、12mを超える自己ベストを持つ所 佑香（白梅学園2）が一步リードしている。しかし、磯部 未侑（都文京2）も全国選抜で追風参考ながら12mを超えており両者の対決となるだろう。11mのラインが関東新人出場となりそうだ。

今年から今大会の正式種目となった棒高跳は10名の出場である。3年生では全国優勝した青柳 有香（都雪谷）がいるだけに、この種目に取り組む選手を増やしていきたい。強化委員会でも練習会を計画しているので積極的に参加してもらいたい。今大会出場者では小栗 七海（日大二2）が唯一3mを超える自己記録を持ち優勝候補である。来年からは女子の三段跳・棒高跳・ハンマー投がインターハイの正式種目となります。是非とも多くの選手に関心を持ってもらいたいと願います。

#### ・投擲

砲丸投では、一年生ながらインターハイ5位に入賞し13mを超える自己記録を持つ小山田 芙由子（東京1）が断然優勝候補である。岩手国体出場を控えており練習も充実していることから自己記録を更新する可能性は高い。小山田に対抗できるのはチームメイトの小林 瑞生（東京2）で、12m54の自己記録を更新できれば優勝のチャンスが出てくるだろう。

円盤投では、砲丸の小林 瑞生が支部予選で36m台にまで自己記録を伸ばして他を引き離し優位としている。こちらチームメイトの栗津 彩弥（東京2）をはじめとする30m以上の記録を持つ選手と優勝を争うだろう。

今年から正式種目になったハンマー投は僅かに4名の出場である。37m36の自己記録を持つ小林 瑞生がランキングトップで優勝候補といえる。来年のインターハイ出場には42m以上が必要かと予想するがこの冬からの強化練習などに多くの参加者を期待したい。

やり投は、インターハイに出場した花村 春香（九段中等2）には45mを目標にしてもらいたい。助走がスムーズになれば問題なく投げることが出来るだろう。同じ1支部の上島 聡子（都田園調布2）と小関 春香（都東村山2）も力強い投げが出来る事から上位に入るチャンスがあり期待したい。

#### ・リレー

女子の両リレーでは東京高校の優勝は揺るがないだろう。400mリレーではインターハイ3位のチームから2人が残り、12秒2台の選手が3年生の抜けた所を補うことから46秒台で走ることは間違いないだろう。1600mリレーについては、全員2年生のオーダーでインターハイ8位とし、記録的にも3分43秒台をマークしていることから大会新記録を期待してもいいだろう。東京高校を追うのは八王子・白梅学園・日工大駒場が上位入賞を目指しそうだ。

#### ・総合

各種目全般に有力選手が多い東京高校が優位かと思うが、七種競技の大野 優衣が単独種目で多数活躍するなど優勝候補の多い白梅学園の高得点も予想される。また、八王子も多くの種目で加点しそうな事から総合優勝争いからも目が離せない。